



忠臣山賊傳

六

遠18
317
6



遠門
317
卷6

本宗

忠臣山賤傳卷之六

俠膽刺客

東都

桃華山人 著

去程小滝木劍助と妻木小弥太が伴ひて二乃瀬なる
 浪人乃任家小赴た尼が小其人小ハ何とを二人の女
 乃苗守居しに在るが尼れを一人と妹田乃女ふ一人
 ともかかると未女小く有るハ夢うとをりかたらた
 そも此身達と如何あるにけしこの家小ハ来つるも
 同々小おとひる者ハ涙成ふり 劍助乃両乃被小
 ともく只と声成河もあくとありなりありとて
 死小弥太と何れもあつたもそふんも免も照しくて

とも小袖哉そぬり〜其時劍助もう〜
二人乃妹小ひ〜我家成〜
いど〜ひ乃邑小住居〜
小うちあ〜日來より継母〜
見小〜身ホ〜
さ〜と〜ひぬま〜
悪た〜成ひ〜
更の有つ〜
諫言〜
小移〜折〜小大望〜
い〜先〜

扱その更成も〜と浴小も起〜
わし和射田司〜仁木勘由左衛門父子〜
小与カ〜我成た〜
主人成〜
〜継母成〜
〜一旦〜
〜者成〜
〜身成〜
皆我ふ〜
〜六金〜
〜巧小〜

只何妻もこゝへ怒り有と死しありと妻分てぞ
 迷々小田の女末女も月しく涙小噓あがり
 九七が悪妻小より難哉武士小まゝいさゝかあや
 成ひとつふり出其因小より此所へきりし妻
 まづつちり小言出れハ劍助をゆりとも更小ころ小
 ううとたりと叔父の阿奢梨成始と継母横死の
 光景成れをまむひ合さる小とだ頃九七が悪行と
 けひ今さる継母伯叔阿奢梨の洛小出成考小とも
 くりも継母が始より終まろ悪妻方と死とむひ
 ぶぐろえもいさゝかいひとつ小おとあ何箇のしハま
 後あこゝろしと小弥太成うらく連て此家成出ゆ

折しも二人の妹と劍助成引と死ひそふ語つる小ハ
 おげきの中ながり悦し死妻のをぬりぬるハ遍り難義
 の折り小助らましましせと武土こそ東山殿とや
 ころ御内人とハんえふが頓て館小とせむひハ御
 迎成むりり末女成召ふゆたの約諾あり此妻も
 悦ませむろ登しと兄の意も汲と身と成たて
 招ふ玉の典成ぞ待ぬるもこころせめぞあはれ
 くる妻木小弥太ハ巻の上小衣成まひ上小黒き
 衣服成着る用意乃刀とたれを夜小入如意ハ
 小分登りの師が谷成未申乃方小ころ東山の館
 見ゆらまふをろハ銀燭成てり舞曲の志

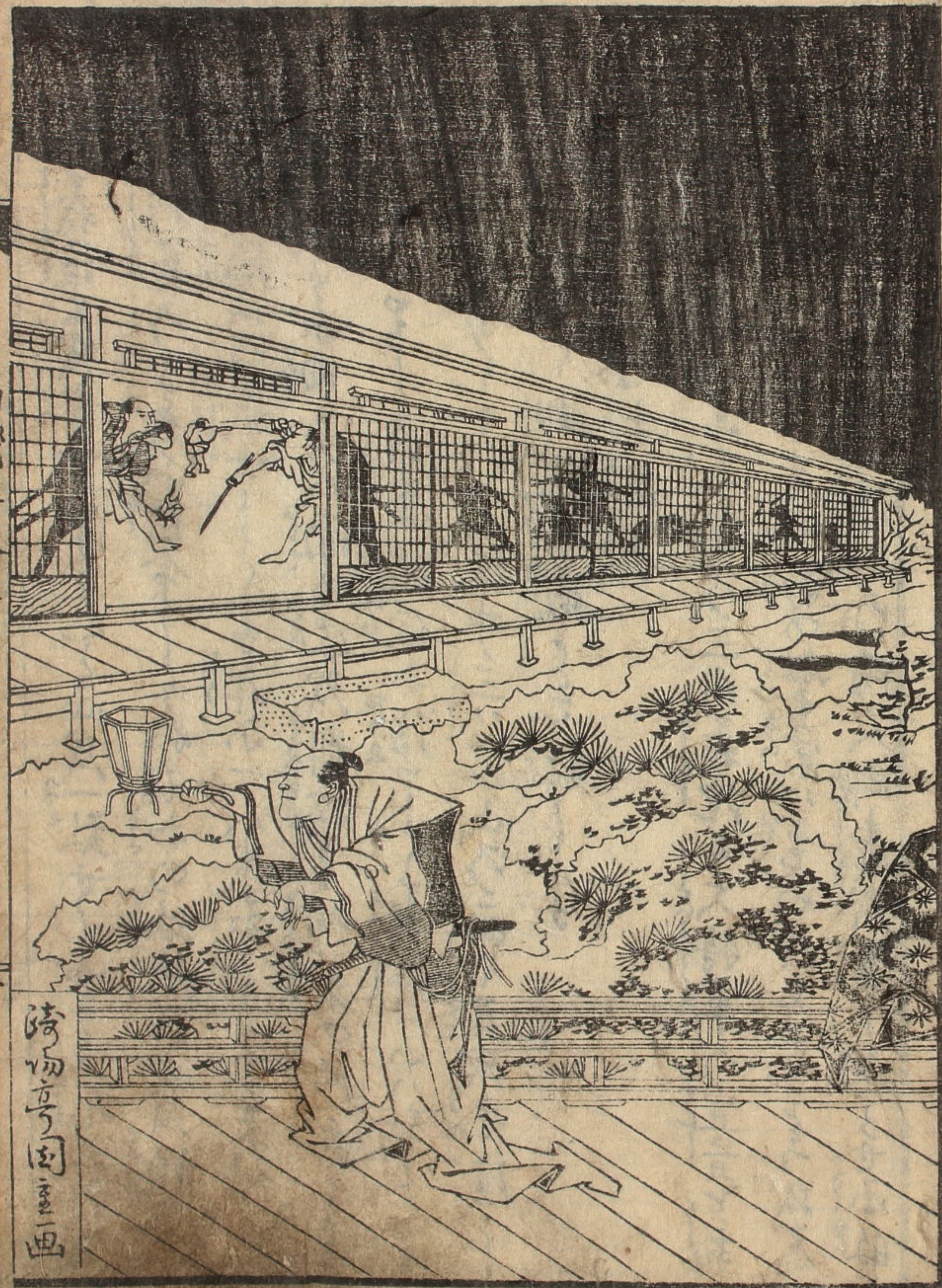
山く小御言こころり其賑ひ大くさあかねを庭前小忍ひく
 内乃動止茂窺小北乃政所なる客殿小八仁木勸解面左
 衛門俊勝父子茂始こころり。齊楚の衣服茂るざり山川の
 玉蕊茂あうづる女舞茂るあうづる茂酔茂るこころり観
 覽せり。次小八緒士の面々酒茂るこころり池とあり。園茂るこ
 林乃こころり。酔奥いとこころりけあある頃不ひ。小弥太八手水
 鉢乃こころり小忍く乃柄茂あゆつ。折やいらいと身と倚
 系。そもく東山殿の結構とこころり。後と高山小坊岸茂削
 屏風茂重くあうづる。前小八三重乃壘茂築る。三所小
 函門茂るこころり。樊噲る勇有とこころり。とぎ茂るこころり小至
 くる是茂ひくこころり。能るるたり。さうる小弥太と音小

皮えり忍乃達者小く有るれぞ。うりう峯小分入るこころり木く
 乃梢茂はるこころり。更にこころりも猿乃林小入るこころり。甚
 安くと庭園乃内小忍び數萬騎乃武士乃列茂るこころり
 たる中へ向ふとこころり不敵とこころり。や縋つる茂る。さうる小時うりて
 けいと弓西く轉ト舞樂の御音とこころり。人も林むりと
 催まこころり。俊勝則勝が並居こころり。うりうあふ鳳鳥と
 彫小こころり。欄間茂けやうりこころり。刀茂抜持せり。上り
 坊とせり。立所小十人余も坊とこころり。不意茂討とこころり
 更あれを潮乃こころり。ふこころり。むと上茂下へと強乱とこころり。ま
 と曲者あり余もふとこころり。直宿乃侍とこころり。手く小刀茂
 提つこころり。よかこころり。ち小障子茂けやうり庭小出

池いけ小こさせせ小こ橋はし成なりとびび之の築つ地ぢ成なりのりとと出でしとせせか
 もや大おほ勢せう乃の人ひと數かず成なりとつつ之の館たての巡めぐ成なりとつつりりこめを出いでぬぬ
 成なり方かたもああららむむとと館たて内うちのの水みづ門かど小こああららむむとと落おちぬぬ水みづ小こ身みを
 志しづづめめ須す更さら申まを申まをすすとと成なり穴あな規ぎひひりり然しかるる小こ館たて乃の強つよ動どう大おほ方かたあ
 ららずずしし館たて乃の内うちのの水みづ門かど更さらぬぬ庭てい中ちゆう草くさ木き成なりとつつりり
 尋もとねね木き乃の梢こぎ池いけ水みづ乃の底そこままぐぐととむむるるふふぞぞ今いまハハ小こ弥や太たも
 隱かくぬぬ所ところああくく水みづ門かど乃の破やぶりりとと表おもて乃のとと出いでししととむむるる小
 堀ほり乃のむむららふふとと舞ま成なりとと動うごくく水みづ小こも心こころ成なりははるるれればば是こゝれれははおおて
 ありりとと覺おぼ期ご成なり穴あな免めん引ひ返かへししとと亦また庭てい小こ入いとともも死し成なり穴あな免めん
 しし身み乃の此この期ご小こいいととりりとと未ま練れん小こも適のままとと耻ち辱じやく成なり晒さらしし
 ととりりとといいささららとと各かくああるるややとと成なり對たい手てとと討うち死しししとと劍けん助すけ

と約やくせせ義ぎ成なりむむとと館たて小こととの館たて小こととれれババ山さん名な齋さい
 官くわん昌しやう隆りゆう成なり始はじめとと馬ま場ば進しん藤とう志し村むら乃の軍ぐん乃の曲まが者ものとと
 ああまま討うちととりりとと高たか名なせせよよとと一いち度ど小こ左さ右う乃の切きととれればば
 小こ弥や太たとと是こゝれれ成なり更さらととももせせ守まも飛ひ鳥てう乃の切きむむととハハ獅し子こ王わう
 乃の荒あららむむととりりとと小こ西せい角かく八はち方ほう成なりだだととレレ乃の刃やいば金かねののははらら
 ままぐぐとと相あいいととりりととたたととりりとと弥や惣そう太た有あ真ま馬ま場ば平へい内うち山さん名な志し
 村むら乃のととももがが仁に木ぎ乃の一いち人にん當とう千せんとと憑たも一いち者ものとともも日ひ一いち杭か小このの
 殺ころししととああららむむ今いまとと是こゝれれ近ぢかありりとと腹はら巻まととれれとと腹はら十じゅう文字ぶんじ
 小この功こうととりりとと面おもての皮かわ成なり功こうたた志し村むら一いち邦はなかか上かみ小こ兎う首くび小こをを
 伏ふせせりりととりり斯かくく館たて乃の強つよ動どう静じやうととりりとと成なり館たて乃の強つよ動どう静じやうととりりとと
 かくかく小こハハ仁に木ぎ俊しゆん勝しやう父ふ子こハハりりととももささららととりりとと是こゝれれ成なり館たて乃の強つよ動どう静じやうととりりとと

山崎傳書卷之六



清物亭内景画



義澄公戎害しまゝしん心成一致せしやう元二十九
 人刺客乃く免ふ亡命しつれむ水の政所ふ心成傾く
 阿里端乃く武士しん外ふ一人もあうりり。されども
 忍ひ入る曲の一回の皮戎刺捨く何者の所為しん
 つしんさしんく久変徳保小治のく義澄公ふハちとあ
 飯鐘ましりくれむ。搦井三位小山乃面く君戎守護し
 はつせく御代善歳とそ統しん

列士 忍 興

斯く昭憲二年癸丑乃三月義澄公大將軍乃宣旨と家
 里のく多ひれは花乃おの繁榮ハ色小は花を。とろ成ふ
 一々管領若名清川乃兩人御壽戎賀し進了せぬ故

寛仁大度小し緒民安堵乃おと成あを所小立達
 次郎照春が妹末女ハ濃越御掬乃折く君乃御覺へ
 異あせむ。此度御壽乃次小南の身へ興入有るたより一
 出されく小就く藤代左重致此妻戎承皇まき四
 月十二日乃吉日ありん。八則左馬込重致戎名附乃親族
 と頼之園生の方と名戎改免婚儀己小定まりり。御取
 持乃役係しん。茲小集る。心科左衛門右主正感濃喜
 判官光長大荒木二弟左兵衛尉光時其他諸家のとも。り
 綺羅戎のり。星と列しん。何處せり。昭れ十
 六日乃早天より發園まび。御鐘乃外回戎く。て
 暮戎進と待りり。園生乃方。藤代左重

山田傳卷之六

致が平野ある下邸戎里とて乗入省分たあきむ。たそ
 かき乃頃よりし御近乃用意戎を定免らぬ已小附
 刻小も福里集く其以ちの小ありぬまバ惣門小ハ舞火を
 小庭上小常目戎とて行粧乃食應美戎を
 善戎をく玄突小興くた上きま北乃基よりも敷あ乃
 女中粧ひくく戎をぬくと並ゆる葉興と女奴とて者
 乃局乃防小く巨仕小申出いと高たせのく戎擲ゆ
 都合八人式基より是をとて次内ノ廣間といつ小きま
 身戎をく其上小集居とてを婚礼乃席に禮戎と
 義澄公小御参戎とて入の葉興乃捧小御年と
 ぬひぬまも敷あ乃局とての両方小左よりく小代

左馬路が妻岩塚といふ今宵乃待更女郎とてふあり
 興乃戸戎とてひそやふ押ぬ戎とて低く御
 守むとてなぶとて葉興乃内ノ左の子戎とて入前
 筒守護小戎とてけんとて先戎とて引とて興
 乃ひき用をうち上る。内より出あが小岩城戎とて
 一間をくりも投出とてれ義澄公を始とて諸の事
 ちのふみ及むす多乃局もかちり死強だ是はとて見
 く河きを園生乃方小ハあさむとて丈ある髪をく小
 く結ひくくくろのく小振とて前黄白乃腹巻小とて
 乱地小角桐戎織とて明装戎着。上小ハ法とて深の
 布衣乃大廣袖戎とて小脚尙小足戎とて

御身ハ天下ノ主ナリ身あり北ノ臺ある政所成さげ
 其濃越後ノ境小なる歩歩ハ今成サレ
 妻ある也。たしく継母ノ難小あふも子なき親の爲
 小死をうしりて何成クハなむや。さあくと身成捨
 練ふ小つてハ悪魔のしれた親よりともあどハ其子の
 至誠小悪心成ひ終ぐさずといふてあじ。それ成練免ず
 しく身成山林小遁あむ。とりも盡さず母乃益悲ふ
 たり成天下の諸民小糸を小等々るべし。今夜園生改名
 小與入さる女こそ此劍助が骨肉成りけし妹あり。斯
 不孝の御辺小道成立ぬ。妹成慰むのせんと
 劍助が兩の眼のあきりある肉を決しとるあふべし

とていひたあてて。義深公よりせむひ然を汝小同きま
 阿。身成山山賤の分際と何成多く乃主民成り
 らひより小強練成企て人民を殺害小成り或は尚
 宿へもよ乃者とさる。今後勝父子成始とくまの
 軍成討せつやとの。自へ。劍助さる。一條ありと云も
 こそ。小旅。忠成。義成。立る。乃。一條ありと云も
 終る。小。の。や。と。上。人。乃。成。殺。一。國。家。成。強。動。さ。せ。ぬ。る
 事成つて。己が忠義とさる。更。其。い。れ。る。な。ら。し
 とも。成。り。え。ど。と。の。是。む。劍。助。さ。る。の。り。里。を。成。り。愚。や
 とも。小。成。練。洗。村。の。山。跡。と。成。り。居。る。汝。亦。を。白。痴。あ
 是。斯。入。び。對。面。小。成。り。上。り。ハ。今。を。何。成。一。は。と。隠。す



山見作



剣助園生の
 方此
 真小忍び
 東山の
 殿中
 小

山見作

爾死我身乃素姓... 某こそも滝乃木劍助といふまふ... 山あの一城の至將藤曲即龍奥の家... 光が孫小... 主乃中懐成とくし... 一戦一戦... 主家断絶の初苗館へ奪取し... 乞傳し為なり。為茂が首成... 義沈公茂も一討小せしむる勢ひなり。義沈公茂始まのせ

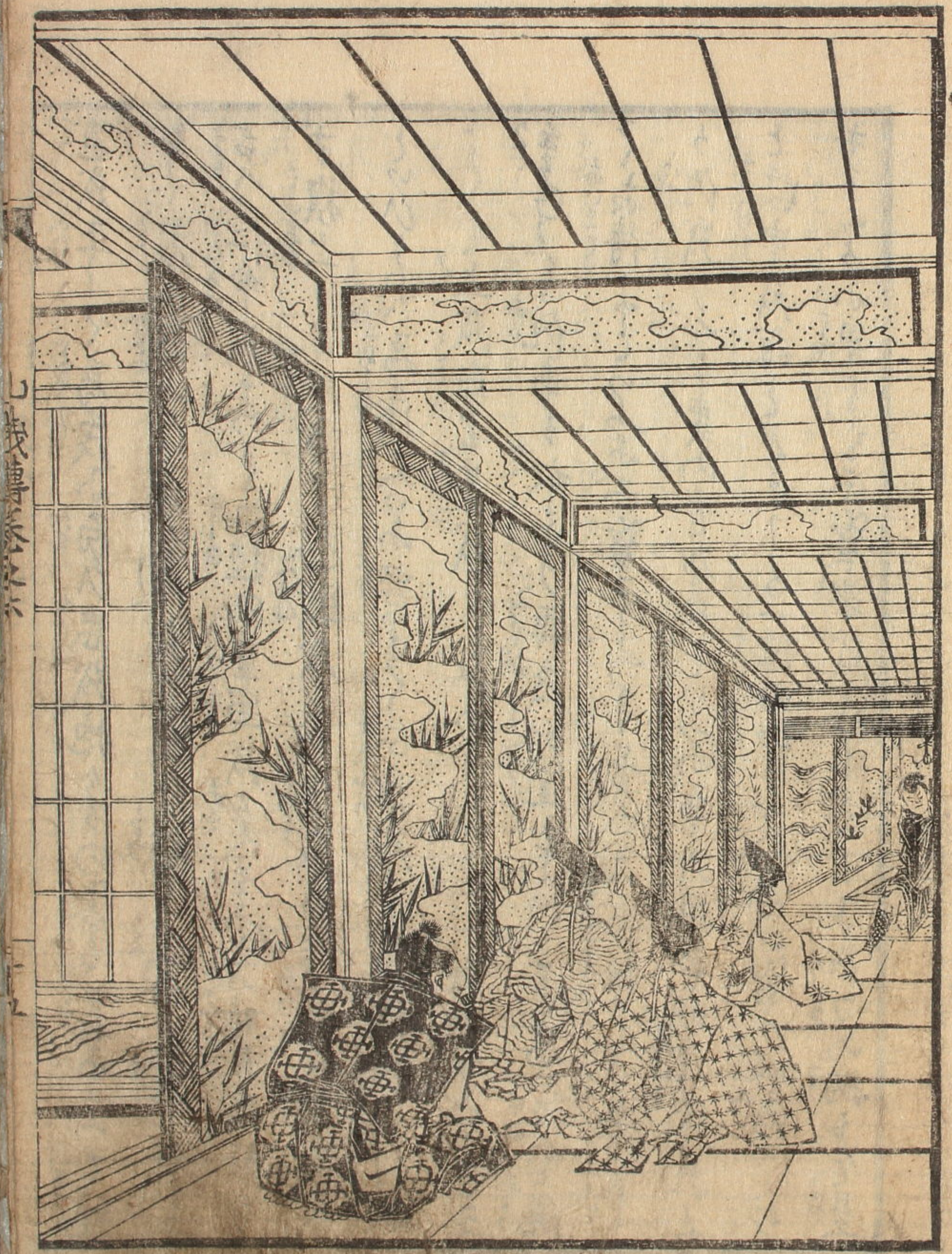
並居る緒土乃面くも扱こそと。劍助が由緒成き。その義... 助がくく小守りあハ天地の間小おのく... 今館小忍びきこり予小對し... 予也もあり。さハ去あう渠が主家... 一ハ國家乃為成をうすし... 小ハ必成也失ひ其身成も亡せり... 忠成りた義成守るゆどの為成

く守やと有々お小劍助^{おんたけつ}に成^なりしは……やせらるやうに
やせらるしと久^く。候^ま合^あ主^{しゅ}君^{きみ}龍^{りゆう}奥^{おく}私^しの意^い成^なさしと……
不^ふ義^ぎ服^{ふく}乃^のの軍^{くみ}成^な發^{はつ}一^{いつ}其^{その}が為^{ため}小^こ家^け成^な亡^なし……
たりとも……
兩^{りやう}品^{ひん}然^{ぜん}も……
よた……
不^ふ……
里^り四^し方^{ほう}成^な白^{はく}眼^{がん}く……
小^こ……
山^{やま}四^し郎^{らう}成^な重^{ちゆう}の三^{さん}士^し成^な先^{せん}……
しとひ……

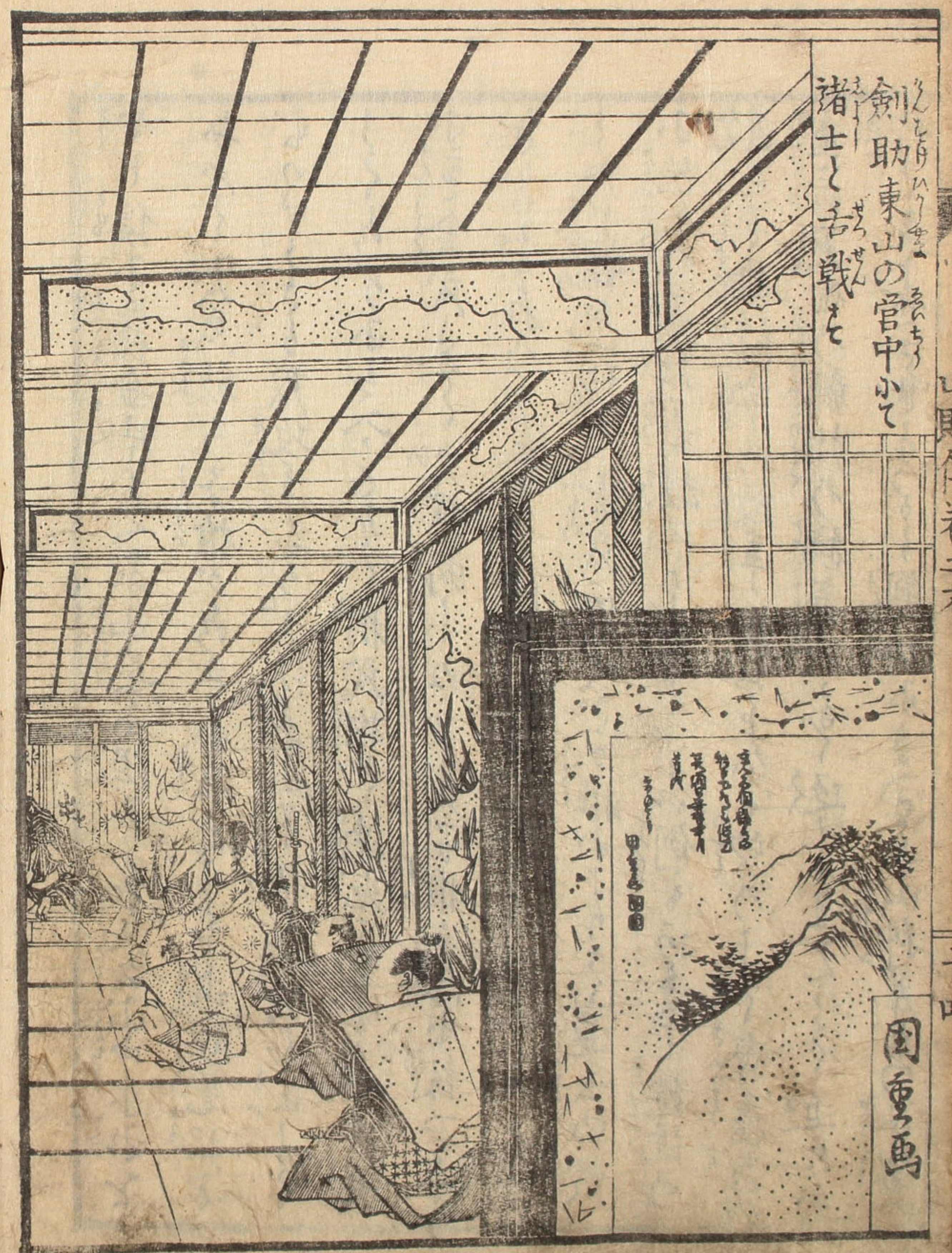
いもし……
しとひ……
今^{いま}為^な成^なを討^う……
不^ふ……
ゆ……
殺^{ころ}不^ふ忍^{にん}んや……
不^ふ……
専^{せん}……
し……
と……

漢土晋の文公のまゝ重耳とつひに母後母嬖姫の終は
遭く出奔し楚小投まゝ折る忠臣曰犯趙衰子ぬ子
推の三人付從ふ父乃献公死し後疆姫の子の卓子と
まゝり緒はるふ是小飯伏る心あぶらし李克といふ
者卓子殺刺せり然し後小重耳小飯まゝり路ありて
程を是をいふもまゝるふあまき女子推あるも己が
役の肉我割く是我重耳小食せむ遂小まゝり文公と
かれまされむ曰犯我姫と後趙衰子も位小つれし
上卿しはありぬまゝもいふ小まゝり子推る齒録と晋
ふとあ。是我恨小いふや門小述懐乃詩我題し

母と俱小覆金山とつゝ山奥小隠まり文公山中小水と
おれ火我放ち子推があ中小在んを求む是報ど
もつゝまゝり我攻あり。さ何れ小子推を義を正し
しくあ中小入となく樹我抱く楚死しそれより晋
小を食我とて火我断しぬる小子推が恩小報つと
きまら。それろあまむ澤のう程ものまゝに匹夫小く有し
とれ見姫が一握乃美我何とさる恨小より退去の後
小伯立乃子我美顔公封し家例も何さむ終洗乃
忍小子推澤亭の故車我あひく望乃し齊徳家の
重吾黄金乃鑄給乃旗事故あ返し重之とて近臣小
作とえ上をさせむつゝ劍助小る山科在あつ心は



し
其
巻
二
六



劍助東山の管中
小て
諸士と舌戦も

し
其
巻
二
六



因重画

し
其
巻
二
六

とおふたろむむとていども母を母叔父を叔父たり怨と
 ともむは是も再會さへゆるを汝が一命汝汝小預んこは
 去あがり叔父母人の欲汝を赤眼の前小並あがりや
 く此場汝去と強きこしり過くもまあろどと金
 剛力士の荒ぶしく鐵の肉成とくと踐あろとけ
 立お糸緒士と一度小退とる巻為茂やろどとさく用るを
 義澄公釣成けりけり一旦予が義成とく此場を汝を次郎
 為茂再會の一戦成とく糸追ハ四海乃肉小放し釘毒吏小
 ゆせよと削しゆくと君命是非たて敷多ろ武士矢襖
 けり四方成りこも門外小送の予為茂を悠くと腰小
 鐵ふとろろ子ゆり成白服立出ろの實や永正八つの年

舟岡山乃戦は文野次郎為茂とて敷兼乃欲成打候
 同成致とて一戦小討死しと豪傑ハ此滝乃木乃劔助小
 山科左衛門正盛も其日の鎗乃合よ為茂々孝と全
 うしめし首成更おふろとて義ある勇士乃挙動と
 羨せぬ者も何ろかろと。扱まご堂逢照春も謀及人の余
 教ふががみの為茂々義心小免せし東山殿小仕くもれ王
 園生もそのほ入真有と同出とて君君誕生しとみ浅層
 殿とを中々お是とかりち東山殿より三代目の公方義晴
 公乃御事あり。世小滝乃本劔助成盜賊乃首領とて
 ち文野次郎為茂ありとてその素姓成とてさる古女
 世上乃作者ありハ忠臣乃とて人を殺小只その勇猛の

條火いしんうらふお狂言成作まじく滅後たふしあをいれも
争う逆暴凶悪乃匹勇成まじく孝情忠信乃義氣成奪
こむる屋々ん作者此続小於くハこふ箇の肺肝たふの多々
小滝乃本劍助まじく行状成はまじく延徳乃紀曆小配まじく同
出度春の慰種小はまじく以く女子の弄翫まじくとせり其狂
戯小く純語あるハ月々人是由るはとる命まじく支小あ

忠臣山賤傳卷之六大尾



篇者 東都市隱

桃華園三千丸



校正 浪速長堡

南里亭其樂



画士 東武多女池

葛飾北泉



丁亥年四月廿八日

一八

仁本駝右衛門
多賀島香兵衛

太平濱乃松風

戊年
護販

京都二条車屋丁

水屋宗七

同蛸薬師高倉

山城屋佐兵衛

江戸日本橋砥石店

大坂屋茂吉

尾州名護屋

永樂屋東西郎

大坂心齋橋筋博常

河内屋長兵衛

同南久太郎町

河内屋平七郎

泉州坂山北系屋町

住吉屋弥三郎

書林

